日南市埋蔵文化財調査報告書　第1集

日南市遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ

［鵜戸・東郷・飫肥・吾田地区］

1990.3.

宮崎県日南市教育委員会

正　誤　表

「日南市遺跡詳細分布調査報告書 I」

ページ	行	誤	正
P. 1	4行目	調整	調査
P. 15	9行目	（集積遺構）	（集石遺構）
P. 15	14行目	送り出した	造り出した
P. 28	12行目	鈴木重吉	鈴木重治
P. 28	16行目	日高重考	日高重孝
P. 28	18行目	日向知名録	日向地名録

日南市埋蔵文化財調査報告書　第１集

日南市遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ

［鵜戸・東郷・飫肥・吾田地区］

１９９０．３．

宮崎県日南市教育委員会

例　言

1，本書は、日南市教育委員会が平成元年度に文化庁・宮崎県教育委員会の補助をえて実施したリゾート推進地域の遺跡詳細分布調査の報告書ですが、国・県・市指定の文化財についても合せて報告しています。

2，指定文化財については、その指定地内等で開発事業を行う場合は、文化財保護法、宮崎県文化財保護条例、日南市文化財保護条例等に基づく現状変更許可申請を行い、事前に許可を得ることが必要です。

3，本書に掲載された遺跡（埋蔵文化財）は、すべて文化財保護法にいう「周知の埋蔵文化財包蔵地」です。

4，「周知の埋蔵文化財包蔵地」において、土木工事等を実施しようとする場合には文化財保護法により「発掘（工事）に着手しようとする日の６０日前までに文化長長官に届け出る」必要がありますので、土木工事等の計画段階から日南市教育委員会社会教育課（宮崎県日南市中央通１丁目１番地１・ＴＥＬ０９８７－２３－１１１１内線５２９）ないし宮崎県教育委員会文化課（宮崎県宮崎市橘東１丁目９番１０号・ＴＥＬ０９８５－２４－１１１１内線３３５５）へ事前に照会・協議されたい。

　また、国及び地方公共団体等が土木工事等を実施する場合には、土木工事等の通知書を提出することが必要です。

5，埋蔵文化財は、地下に埋れている性格上、現在、未発見で工事中発見される場合があります。その場合は、文化財保護法の規定により「その現状を変更することなく、遅滞なく文化庁長官へ届け出る」必要があります。そのために、工事等を計画する場合はなるべく事前に日南市教育委員会社会教育課へ照会されたい。

6，本書及び埋蔵文化財に関する問い合せは、日南市教育委員会社会教育課ないし宮崎県教育委員会文化課へお願いします。

序

日南市は、日南海岸に代表される豊かな自然とそれに育まれた歴史的遺産が、多く残された所です。

日向神話の舞台となり、現在もなお厚い信仰を集めている鵜戸神宮や、島津氏と伊東氏の争乱の場となった飫肥城・新山城・酒谷城などの数々の城跡は、日南の歴史を語るうえで欠かせないものです。

しかしながら、埋蔵文化財の調査は、ほとんど手つかずのままでありました。

近年、総合保養地域整備法（リゾート整備法）の制定に伴い、全国各地にリゾート開発の波が押し寄せています。日南市においても、今回の分布調査予定地内で保養・歴史リゾートゾーン、大堂津地区から隣の南郷町にかけては国際級海洋性リゾートゾーンに指定されており、今後、それに関連した開発が予想されます。

日南市教育委員会では、こうした状況を踏まえて、本年度から年次計画で、分布調査を実施することになりました。

今回は、その第1冊として、鵜戸・東郷・飫肥地区と吾田地区の一部について報告します。

この小冊子が、日南の文化財保護に役立てば幸いです。

最後になりましたが、調査の指導をお願いした文化庁・県教育委員会並びに御協力いただいた調査担当者、地元の関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成2年3月

日南市教育長　茨口政俊

凡　例

1，指定文化財指定地の範囲については（赤色）で、埋蔵文化財包蔵地（以下「遺跡」）の範囲については（青色）で示している。点として所在する指定文化財、また、古墳などで一基単独で所在するものについては各々・で表示している。

2，指定文化財の名称は、指定の際の名称である。

3，遺跡名は、原則としてその場所の小字名で命名したが、一部についてはその地域での通称によった。

4，地図上の「遺跡番号」は、すべて地名表のそれと一致する。

5，「遺跡番号」は、集落跡・散布地・城跡等は一番号とし、古墳群・窯跡群等については、群に　対して一番号を付した。

6，「遺跡番号」は、行政区で区分し、100番台は鵜戸地区、200番台は東郷地区、300番台は飫肥地区、４００番台は吾田地区である。

7，遺跡等の所在地は、小字まで表示したが、地番については日南市教育委員会及び宮崎県教育委員会文化課へ問い合せられたい。

8，調査の組織

調査主体	日南市教育委員会	
	茨口政俊	教育長
	潮　幸右	社会教育課長
	日高匡慶	社会教育課文化係長
庶務担当	鬼束節子	社会教育課主事
調査担当	岡本武憲	社会教育課主事
調査指導	面高哲郎	県文化課主任主事
調査補助員	新坂　浄	
	田畑年行	

9，現地調査は岡本・新坂・田畑が行った。

10，本書の執筆編集は新坂・田畑の協力を得て、岡本が行った。

目　次

Ⅰ調査の経過 ・・・・・・・・・・・・・ 1
Ⅱ調査の方法 ・・・・・・・・・・・・・ 1
Ⅲ日南市の歴史的環境・・・・・・・・・ 4
Ⅳ埋蔵文化財包蔵地地名表・・・・・・・ 9
Ⅴ主要遺跡概説 ・・・・・・・・・・・15
Ⅵ日南市埋蔵文化財関連文献一覧・・・・28

付図　日南市遺跡分布図

図版目次

第1図　日南市位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
第2図　平成元年度調査範囲図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
第3図　表面採集遺物（103.本源寺遺跡、302.談義所遺跡）・・・18
第4図　表面採集遺物（201.万ケ迫遺跡、212.殿所遺跡、・・・・19
　　302飛ケ峯遺跡、304.菖蒲ケ迫遺跡、307.西山
　　寺遺跡、310.飫肥城跡、317.諏訪ノ馬場遺跡）
第5図　上講遺跡出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
第6図　狐塚古墳測量図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
第7図　狐塚古墳出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
第8図　飫肥城下古図（寛永・正保年間）・・・・・・・・・・・・・・23
第9図　飫肥城下古図（慶応年間）・・・・・・・・・・・・・・・・・24
第10図　飫肥周辺現況図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
第11図　飫肥周辺航空写真 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
第12図　新山城字図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27

Ⅰ調査の経過

Ⅱ調査の方法

Ⅲ日南市の歴史的環境

Ⅰ　調査の経過

今回、遺跡詳細分布調査を実施した目的は、日南市がリゾート推進地区に指定され、今後開発事業の増加が予想されるため、事前に分布調査を実施して文化財の保護と開発事業との調整に資するためである。

調整は、年次計画で実施することとして、本年度は、保養歴史リゾートゾーンに指定されている鵜戸・東郷・飫肥地区と吾田地区の一部について分布調査を実施した。（第２図）

本年度の調査経費は、１，０１４，５５０円（国庫補助額５０７，０００円、県補助額２５０，０００円）である。

調査期間は、平成元年６月１日から平成２年３月３１日で、６月から８月までに関係資料収集、９月から１２月に現地調査、１月から３月にかけて整理作業と報告書作成にあたった。

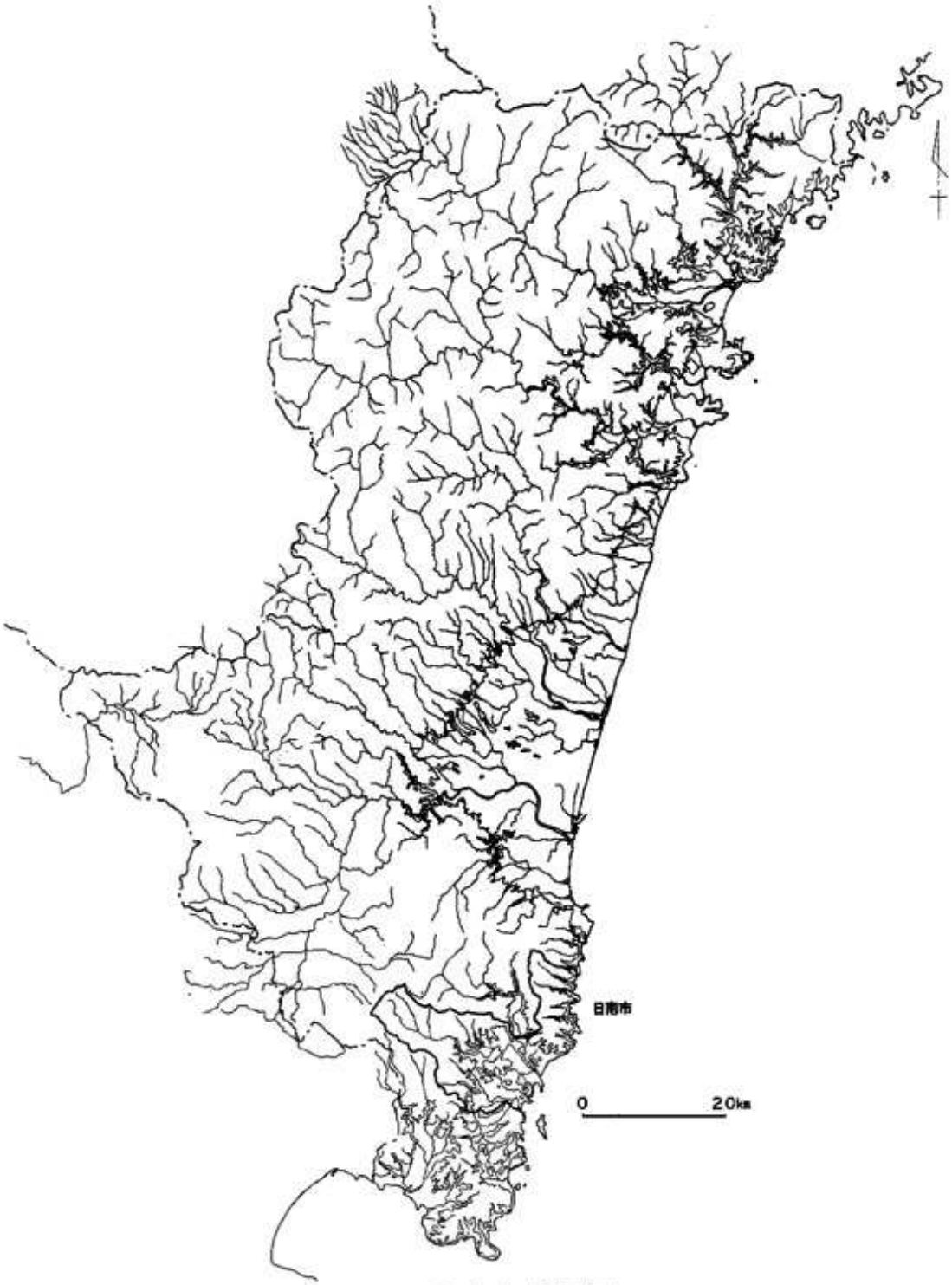
Ⅱ　調査の方法

関係資料収集作業としては、日南市内の遺跡に関係する文献の収集、各種地図類の収集（第Ⅵ章）と、市内広報による情報提供の呼びかけを行った。また、市内各所の公共事業に伴うボーリング調査の報告書も参考のため収集した。

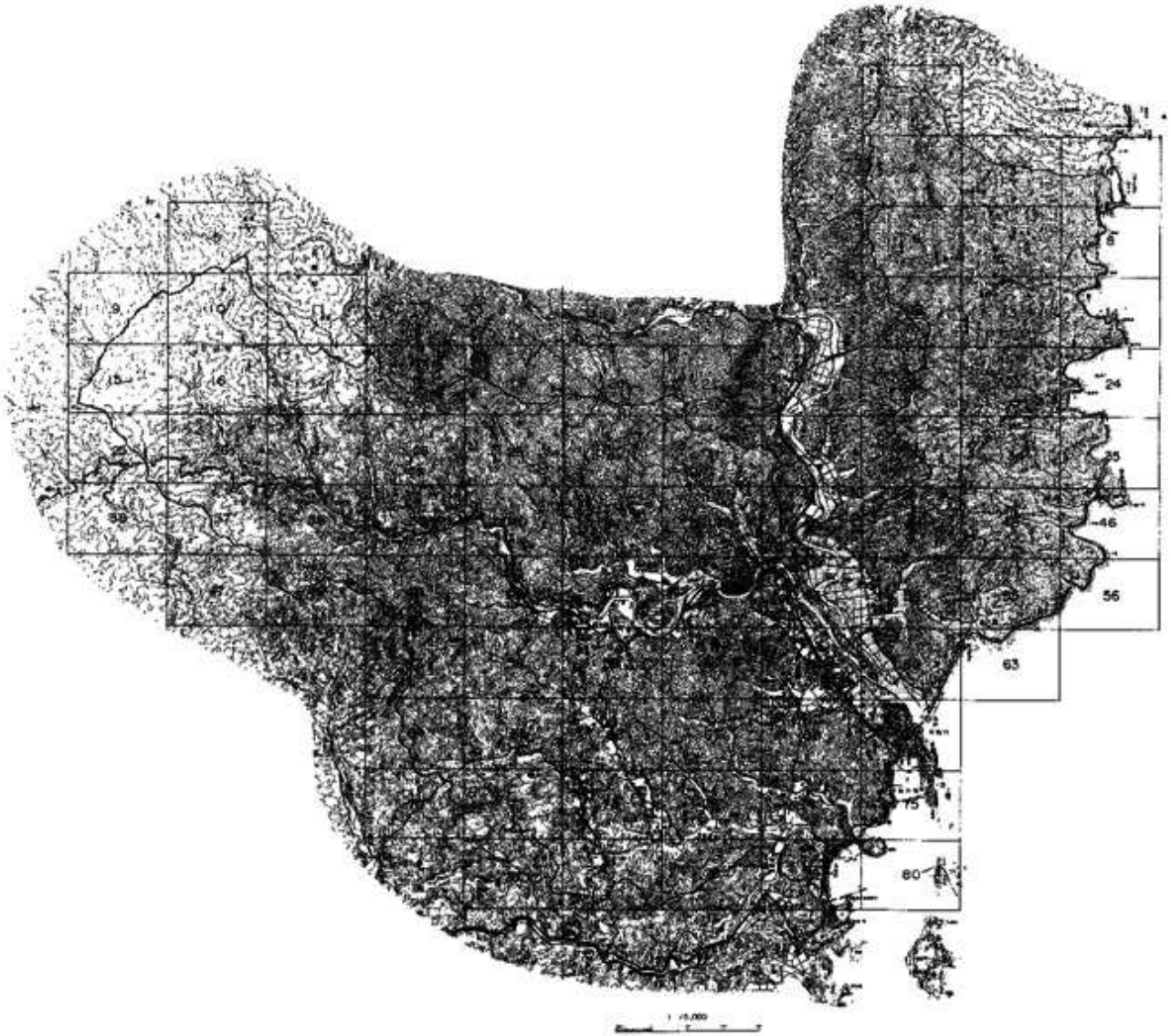
現地調査は、岡本と新坂浄・田畑年行が行った。調査には、１／５０００管内図を持ち歩き、原則としてすべての平地と、城跡や古墳の立地する可能性がある山林を対象とした。

その結果、今回の踏査による遺跡の分布は、飫肥周辺の段丘上に集中した。その理由としては、段丘上の大半は畑地であるため、遺物収集が容易であったためである。それに対して、水田地帯は休耕田が多く、雑草のため調査不能であることが多かった。また、水田は石や土器を排除してあるため、遺物採集は困難である上に、遺跡が地中深く存在する可能性があるため、こうした結果となった。

現地調査の結果、４０遺跡で１６４６点の遺物を採集した。内訳は別表（遺物集計表）のとおりである。



第１図　日南市位置図



第２図　平成元年度　調査範囲図

Ⅲ. 日南市の歴史的環境

日南地方の歴史については、解明されていない部分があまりに多い。とりわけ、伊東氏が入国する以前の状況については文献史料が少なく、その多くを考古資料や金石文に頼らざるを得ない状況である。しかし、考古資料については、近年、ようやく発掘調査が2～3件行われたにすぎず、その成果によって、日南地方の歴史を解明するには今後の資料集積が必要であろう。また、金石文についても日向国内では最もまとまった資料があるにもかかわらず、総合的な研究が遅れている。こうした状況を生み出した要因は、基礎資料の集成とその公開がなかったためと考えられる。

今回の市内遺跡分布調査では、地表面での遺物採集という限られた方法ではあるけれども、遺跡の分布状況について新たな知見を得ることができた。この章では、これらの新知見をもとに時代毎の状況を記してみたい。

（旧石器時代）

今回の調査では、遺跡を確認することはできなかった。おそらくは、厚く堆積した火山灰に覆われているため、地表面では確認できなかったと考えられる。

（縄文時代）

早期の遺跡と後期の遺跡の二時期に集中する傾向がある。早期の遺跡は、今回の調査対象区ではないが、発掘調査の行われた前畑遺跡で、多数の集石遺構を検出した。また、篠ケ城遺跡でも早期の集石遺構が発見されている。今回の分布調査でも、諏訪ノ馬場遺跡や菖蒲ケ迫遺跡で、早期の遺物を収集している。後期の遺跡は、発掘調査が行われた上講遺跡をはじめ、談義所遺跡、本源寺遺跡などがある。早期の遺跡は、すべて段丘上に立地するのに対して、後期の遺跡は、段丘上のみならず、現在の集落と重複するような山裾の平地にも立地する。こうした立地の変化は晩期以降も続くものと考えられる。

（弥生時代）

縄文時代に較べて、確認できた遺跡数は少なくなる。このことは、遺跡数の減少を意味するのではなく低地（現在の水田地帯）に立地する遺跡が多いことに起因すると思われる。したがって、現時点では、ほとんど確認できなかった低地において、今後、弥生時代の集落が発見される可能性は高いと考えられる。

（古墳時代）

日南地方には、他地域にみられるような大規模な首長墓群は発見されていない。現時点で、最も古いと考えられている古墳は、文久３（１８６３）年に砲台を築くときに発見された油津山上古墳である。油津港を見下ろす丘陵上に築かれた古墳で、竪穴式石室からは、鏡一面、勾玉、管玉などが出土したとの記録がある（『日向地誌』）。同じような立地では、風田の東郷古墳が、やはり日向灘を見下ろす丘陵にあることから、日南地方に、畿内的な古墳文化を導入した時点では、海を強く意識しているといえよう。同様に、後期古墳の代表例としてあげられる狐塚古墳は、風田の海岸に近い砂丘上に立地しているうえに、畿内的な横穴式石室を採用している。おそらくは、海路を通じてヤマト政権と密接な関係にある在地首長の墓であろう。後期古墳の分布は、風田の狐塚古墳、吾田の懸城内古墳、星倉の下講古墳など、現在の行政区分とほぼ対応する。なお、飫肥地区には、日向において一般的な墓制である地下式横穴墓、もしくは横穴墓が存在する可能性がある。したがって、鵜戸・風田・東郷・飫肥・吾田・油津などの各地区ごとに、地域共同体ともいえる集落が分布していることが予想される。

（奈良時代～平安時代）

今回の分布調査では、須恵器の出土する遺跡が１０遺跡あった。このなかには、古墳時代の遺跡も含まれるが、大半は、奈良時代から平安時代にかけてのものと思われる。平安時代中期の『和名抄』には、日向国宮崎郡四郷の一つとして飫肥郷の名がある。このことは、日南地方が、一郡として成立するほどの人口がなかったことを示すと見られ興味深い。

（鎌倉時代以後）

建久８（１１９７）年の「日向国図田帳」によると、日南地方は島津荘の寄郡となっており、飫肥北郷４００町、飫肥南郷１１０町が存在した。飫肥北郷は、現在の田野町・北郷町・日南市鵜戸地区など、飫肥南郷は、現在の日南市・南郷町に比定される。仮に、１家族が２町の水田を耕作したとすると、飫肥北郷では２００家族、飫肥南郷では５５家族が島津荘の構成員として存在したことになる。

建武３（１３３６）年の「長谷場文書」では、光厳上皇院宣案によって長谷場鶴一丸に島津荘「日向方飫肥」を管領するように命じている。以後、基本的には、島津領として戦国時代まで存続することになる。この間、考古資料としては、大迫寺跡の墓碑群（永仁３（１２９５）年～）や天神ノ尾遺跡の墓碑群（貞和5(１３４９)年～）、歓楽寺の墓碑群（正和４（１３１５）年～）等が知られている。これらの墓碑群の存在は、１４世紀代までには、存地領主としての武士階級が成長していることを示している。１５世紀中頃以後には、領土拡張を目指す伊東氏と島津氏の抗争に発展するが、この抗争の背景には、存地領主の動きがあることを見逃してはならない。

日南市内遺跡詳細分布調査　遺物集計表

遺跡名	石器	縄文	弥生	須恵	土師	陶器	磁器	不明	小計	備考
鷲巣遺跡				1	9			5	15	
伊比井遺跡					3	6	1		10	鉄片1
本源寺遺跡		96			7	4	2		109	鉄片1・布目圧痕土器1
小目井遺跡					61			4	65	布目圧痕土器2
宮浦前田遺跡					17	1			18	布目圧痕土器1
吹毛井遺跡				1	5				6	土錘3
万ケ迫遺跡	1				5	3			9	布目圧痕土器1・焼石1
松ノ元遺跡		18							18	
狐塚古墳				8	1				9	
木場遺跡					18			4	22	
駒宮遺跡			1		48	6			55	布目圧痕土器1
前無田遺跡					7				7	
沢渡遺跡					4	1		1	6	
殿所遺跡	1	53	9	2	41	8			114	糸切底1
岩ケ尾遺跡			1				1		2	
川向遺跡					1				1	
飛ケ峯遺跡					76	6		3	85	埴輪片1・高坏1
談義所遺跡	1	65	72		44	2			184	布目圧痕土器1・糸切底
糺遺跡					14				14	坏底1
菖蒲ケ迫遺跡		8			11				19	
宮守ケ迫遺跡		3			13	1			17	糸切底 1
小計	3	243	83	12	385	38	4	17	785	

遺跡名	石器	縄文	弥生	須恵	土師	陶器	磁器	不明	小計	備考
北ケ迫遺跡	1	14	2		3				20	
西山寺遺跡	3	1	2	1	99	23			129	黒曜石1・石斧1 手づくね土器1
上永吉遺跡					3	1			4	
片平遺跡	1	8			5	2			16	
飫肥城跡		1					1		2	青磁椀
篠ケ城遺跡	7	4			26	6	1		44	鉄滓1
上ノ原遺跡		2			17	3		1	23	
川辺ケ野遺跡	1	10	2	1	135	7			156	黒曜石1 布目圧痕土器1・土師皿
八幡原遺跡						3			3	
原坂ノ上遺跡	4	76	22	1	62	4			169	黒曜石1
諏訪ノ馬場遺跡		72	7	1	22	2			104	砥1
大原道遺跡					43	1		2	46	
釈迦門遺跡	1				16	1			18	
釈迦尾ケ野遺跡				1	3				4	
前田下遺跡	1	1		1	30	1			34	
立久保遺跡					21				21	
上講遺跡		10	40		2				52	
射場遺跡					6				6	
時任遺跡					10				10	
小計	19	199	75	6	503	54	2	3	861	
合計	22	442	158	18	888	92	6	20	1646	

Ⅳ. 埋蔵文化財包蔵地地名表

鵜戸地区

遺跡番号	名称	所在地	種別	時代	旧番号	文献	備考
101	鷲巣遺跡	大字伊比井 字浜田	散布地	奈良 ～平安			
102	伊比井遺跡	大字伊比井 字塩屋之元	散布地	中世 ～近代			
103	本源寺遺跡	大字伊比井 字矢引迫他	散布地	縄文 ～近世		2	
104	天神ノ尾遺跡	大字伊比井 字坂口	墓地 城跡	中世		5	
105	富土河内遺跡	大字富土 字永荷田	製鉄遺跡	不明			
106	瀬平城跡	大字富土 字瀬平	城跡	中世		5・6・7	
107	小目井遺跡	大字富土 字前田	散布地	平安 ～近世		2	
108	宮浦古墳 (伝玉依姫陵)	大字宮浦 字上ノ園	古墳	古墳		3・4・5	
109	貝殻城跡 (水ノ尾城跡)	大字宮浦 字鬼ケ久保	城跡	中世		5	
110	宮浦前田遺跡	大字宮浦 字前田	散布地	中世		2	
111	吾平山古墳 (伝速日峯陵)	大字宮浦 字串平	古墳	古墳		3・4・5	
112	烏帽子嶺砦跡	大字宮浦 字桑木迫	城跡	中世		5・7	
113	吹毛井遺跡	大字宮浦 字空田	散布地	中世			

東郷地区

遺跡番号	名称	所在地	種別	時代	旧番号	文献	備考
201	万ケ迫遺跡	大字風田 字万ケ迫	散布地	平安 ～中世			
202	松ノ元遺跡	大字風田 字松ノ元	散布地	縄文	23-18	1・2	
203	狐塚古墳	大字風田 字弓場元	古墳	古墳	23-20	1・2・3・5・6	
204	木場遺跡	大字平山 字木場	散布地	古墳			
205	駒宮遺跡	大字平山 字別府	散布地	弥生 ～中世	23-19	1・2	
206	高佐砦跡	大字益安 字堀之内	城跡	中世		5	
207	前無田遺跡	大字東弁分乙 字前無田	散布地	中世			
208	鬼ケ城跡	大字 字城ケ平他	城跡	中世		5・7	
209	沢渡遺跡	大字松永 字沢渡	散布地	中世			
210	陣ケ迫遺跡	大字松永 字陣ケ迫	散布地	中世			
211	犬ケ城跡	大字松永 字沢渡	城跡	中世	23- 7	1	
212	殿所遺跡	大字殿所 字上ノ段他	散布地	縄文 ～中世			
213	岩ケ尾遺跡	大字殿所 字岩ケ尾	散布地	弥生 ～古墳			
214	中ノ尾砦跡	大字殿所 字城ケ平他	城跡	中世		5・7	

飫肥地区

遺跡番号	名　称	所在地	種別	時代	旧番号	文献	備考
301	飛ケ峯遺跡	大字板敷 字出水ケ尾	散布地	古墳 ～中世	23- 5	1	
302	談義所遺跡	大字今町 字広木田	散布地	縄文 ～中世	23- 4	1	
303	糺遺跡	大字板敷 字中島田	散布地	平安 ～中世			
304	菖蒲ケ迫遺跡	大字板敷 字菖蒲ケ迫	散布地	縄文 ～中世		2	
305	宮守ケ迫遺跡	大字板敷 字宮守ケ迫	散布地	縄文 ～中世			
306	北ケ迫遺跡	大字板敷 字北ケ迫	散布地	縄文 ～中世			
307	西山寺遺跡	大字板敷 字西山寺	散布地	縄文 ～中世	23- 2	1	
308	上永吉遺跡	大字吉野方 字楠木原	散布地	中世		2	
309	片平遺跡	大字吉野方 字片平	散布地	縄文 中世			
310	飫肥城跡	大字楠原 字舞鶴跡	城跡	中世 ～近世	23- 3	1・4・6・7	
311	飫肥城下町	大字楠原 大字板敷	城下町	近世		5・6・24・25	
312	篠ケ城遺跡	大字吉野方 字篠ケ城	散布地 城跡	縄文 中世	23-14	1・2・5・7・23	昭和59年　試掘 昭和63年　調査
313	上ノ原遺跡	大字吉野方 字上ノ原	散布地	縄文 中世			
314	川辺ケ野遺跡	大字吉野方 字川辺ケ野	散布地	縄文 ～中世		2	
315	八幡原遺跡	大字楠原 字八幡原	散布地	中世			
316	原坂ノ上遺跡	大字楠原 字原坂ノ上	散布地	縄文 ～中世	23-15	1・2	
317	諏訪ノ馬場遺跡	大字楠原 字諏訪ノ馬場	散布地	縄文 ～中世			
318	上城跡	大字楠原 字上城	城跡	中世		5	
319	大原道遺跡	大字楠原 字大原道	散布地	中世	23-16	1	
320	寺ノ尾遺跡	大字板敷 字寺ノ尾	散布地				

吾田地区

遺跡番号	名称	所在地	種別	時代	旧番号	文献	備考
401	堰ノ尾砦跡	大字星倉 字栗殿城	城跡	中世			
402	新山城跡	大字星倉 字本丸 他	城跡	中世		5・7	
403	釈迦門遺跡	大字星倉 字釈迦門	散布地	中世			
404	釈迦尾ケ野遺跡	大字星倉 字立久保	散布地	古墳 ～中世		2	
405	前田下遺跡	大字星倉 字前田下	散布地	縄文 ～中世			
406	立久保遺跡	大字星倉 字立久保	散布地	中世			
407	上講遺跡	大字星倉 字上講	散布地	縄文 ～中世	23-17	1・2	昭和63年 調査
408	射場遺跡	大字星倉 字南原	散布地	中世			
409	時任遺跡	大字星倉 字石ケ嶺	散布地	中世			
410	下講古墳	大字星倉 字石ケ嶺	古墳	古墳		3	
411	川向遺跡	大字星倉 字上汐浦	散布地	中世			

指定文化財一覧表

国　指　定

史跡・天然記念物

番号	種　別	名　　称	指定年月日	所　在　地	管理団体又は所　有　者
1	史　跡	中ノ尾供養碑	昭 9. 8. 9	日南市東郷（大字殿所）	日　南　市
2	天然記念物	鵜戸ヘゴ自生北限地帯	昭43. 6.14	日南市鵜戸（大字宮浦）	日　南　市
3	〃	東　郷　の　クス	昭26. 6. 9	日南市東郷（大字東弁分）	日　南　市

国　選　定

重要伝統的建造物群保存地区

番号	地　区　名	区　　域	選定年月日
4	日南市飫肥伝統的建造物群保存地区	・面積約19.8ヘクタール ・街路　7路線	昭52.5.18

県　指　定

有形文化財

番号	種　別	名　　称	指定年月日	所　在　地	管理者又は所　有　者
5	建造物	大迫寺跡石塔碑	昭40. 8.17	日南市吉野方	日　南　市

史跡・名勝・天然記念物

番号	種別	名称	指定年月日	所在地	管理者又は所有者
6	史跡	東郷古墳	昭12. 7. 2	日南市東郷(大字風田)	日南市
7	名勝	勝目氏庭園	昭 8.12. 5	日南市飫肥(大字楠原)	日南市
8	天然記念物	鵜戸千畳敷奇岩	昭 8.12. 5	日南市鵜戸	日南市
9	〃	飫肥のキンモクセイ	昭10. 7. 2	日南市吉野方	伊地知重一

市指定

有形文化財

番号	種別	名称	指定年月日	所在地	管理者又は所有者
10	建造物	振徳堂	昭45.11. 3	日南市飫肥十文字	日南市
11	〃	鵜戸山別当墓地並びに墓	昭45.11. 3	日南市鵜戸山境内	鵜戸神宮，一部吹毛井区有
12	〃	鵜戸山石灯籠のうち紙開発石灯籠一対	昭45.11. 3	日南市鵜戸山境内社務所前参拝路中	鵜戸神宮
13	〃	鵜戸山八丁坂	昭45.11. 3	日南市鵜戸山境内参道	鵜戸神宮
14	〃	豫章館	昭58.10. 1	日南市飫肥大手	日南市
15	〃	商家資料館	昭58.10. 1	日南市飫肥本町	日南市
16	〃	願成就寺並びに山門	昭58.10. 1	日南市飫肥今町8401番地	願成就寺
17	〃	願成就寺石垣並びに石段	昭58.10. 1	日南市飫肥今町8401番地	願成就寺
18	〃	旧伊東伝左衛門家	昭62.11. 3	日南市大字板敷8248番地	日南市
19	彫刻	鵜戸山の磨崖仏	昭45.11. 3	日南市鵜戸八丁坂を下って右方岩壁	鵜戸神宮

名勝

20	名勝	豫章館庭園	昭58.10. 1	日南市飫肥大手	日南市

天然記念物

番号	種別	名称	指定年月日	所在地	管理者又は所有者
21	天然記念物	八幡神社境内のクス	昭45.11. 3	日南市大字板敷田上八幡神社境内	田上八幡神社
22	〃	鵜戸のスギ	昭45.11. 3	日南市鵜戸山	鵜戸神社
23	〃	松永のシイ	昭45.11. 3	日南市大字松永3499番地	井戸川三郎
24	〃	願成就寺のイヌマキ	昭58.10. 1	日南市飫肥今町願成就寺境内	願成就寺
25	〃	願成就寺のモクセイ	昭58.10. 1	日南市飫肥今町願成成就寺境内	願成就寺

V. 主要遺跡概説

M. 日南市埋蔵文化財関連文献一覧

V. 主要遺跡概説

篠ケ城遺跡（３１２）

永禄１１（１５６８）年、伊東義祐が飫肥攻略のため陣を構えた「篠ケ嶺」に比定される。

昭和５９年と昭和６３年に一部が調査され、縄文時代早期と中世後期の遺構・遺物が出土した。

まず、昭和５９年７月、土取採取予定のため、県文化課の指導により市教育委員会が試掘調査を実施した。調査は、篠ケ城の範囲と考えられる丘陵上に７か所のトレンチを設定して行われた。

調査の結果、基本層構は、Ⅰ層表土、Ⅱ層アカホヤ、Ⅲ層黒褐色土、Ⅳ層暗褐色土となっており、アカホヤ下の第Ⅲ層・第Ⅳ層から縄文時代早期の押型文土器、貝殻文土器とともに、焼石（集積遺構）が出土した。また、アカホヤより上では、弥生期らしい土器や土師器が出土した。その他、第１トレンチの東側のり面で、中世のピットが２個確認され、そのうちの１個から土師器皿が出土した。

昭和６３年６月から７月にかけて、広域農道建設工事にともない、県文化課が発掘調査を行った。調査面積は、８００㎡である。中世後期の遺構は、第Ⅲ層のアカホヤ上面で検出した。地山を掘削して階段上に平坦面を送り出した腰曲輪状遺構である。平坦面には、堀立柱建物や櫛列と考えられるピット群がある。遺構面や包含層から出土した陶磁器から１４～１７世紀の年代とみられる。また、第Ⅳ・Ⅴ層から縄文時代早期の貝殻文円筒形土器群や押型文土器が出土した。

なお、現況は、土取採取が進み、城域の過半は消滅している。

上講遺跡（４０７）　第５図

新山の南側山裾に位置する縄文時代後期から近世にかけての集落遺跡である。

昭和６３年１１月、大字星倉上講５０６５番の倉盛亀一氏のブロック塀建築工事に伴い、県文化課の指導で市教育委員会が発掘調査を実施した。調査箇所は、道路からの比高１ｍの壁面で、竹垣が繁茂している状態であった。調査は、壁面を削り落とし、幅約１ｍ、長さ約２５ｍにわたって実施した。

調査の結果、縄文土器（市来式）を中心に、弥生～土師器、近世陶磁器片が混在した状態で出土した。したがって、調査箇所は、宅地造成時に土盛したものと考えられる。出土遺物は、縄文土器片約２３００点、弥生～土師器片約１００点、陶磁器片（近世以降）約１００点の合計約２５００点であった。

狐塚古墳（２０３）　第6・7図

風田の海岸に近い砂丘上に築かれた後期古墳である。削平が著しく墳形は不明である。主体部は横穴式石室で、玄室部は、長さ約5．6ｍ、幅約2．1ｍをはかる。羨道部は完全に埋没しているうえに、入口部分は破壊されているため不明であるが、石室全長は１０ｍ以上となるであろう。石室の天井石は盗掘により破壊されて周囲や石室の中に散乱する。なお、石室は、東方の海岸に向けて開口する。

昭和５０年代の中頃、国立療養所日南病院の増築の際、羨道部を破壊して須恵器甕の破片が出土した。

明治８年盗掘状況については、平部嶠南の『日向地誌』に次のように記されている。

『海濱ノ松林中ニアリ。其地隆然平地ヨリ高キ三尺許長八間幅五間周圍二十四五間。古ヨリ土人其古塚タルヲ知ルモナシ。唯狐塚ト呼テ敢エテ近カス。明治八年乙亥九月稲澤其衆ト相議シテ試ニ之ヲ發掘シケルニ其中ハ長大ノ巌石ヲ縦横ニ布置シ古キ陶器數品及ビ種々ノ小王數十顆ヲ藏メタリ其品々ハ皆宮崎縣廳ニサシ出セリ今如何ナリシヤ』

飫肥城跡（３１０）　第8・9・10・11図

酒谷川に面した丘陵上に立地する平山城である。戦国期を通じて、島津氏と伊東氏の領地争いの場となった。天正１５（１５８７）年に伊東祐兵が入城してから以後、江戸時代を通じて飫肥藩主伊東家の居城となった。

近世飫肥城の構造については以下の絵図がある。

寛永年間　「飫肥旧城の図」

貞享２年　「飫肥城改築願古図」

寛永・正保年間　「飫肥城及び城下図」

慶応年間　「飫肥城下古図」

明治４年　「飫肥城図」

これらの絵図によると、近世飫肥城の城域は周囲２４町２間２尺（２６２０ｍ）、面積は約２０haを測る。近世初期の城内は、本丸・松尾丸・中の丸・今城・西の丸・北の丸・小城・中の城・宮藪・八幡城の１０の曲輪に分れていて、各曲輪の間は空堀が掘られていた。

貞享元（１６８４）年１１月６日、大地震があって本丸他が損壊したので、本丸・中の丸と今城の一部を一区として、１丈8尺（5．7ｍ）の石垣を築いた。以後、現在に至ってる。

飫肥城の創建年代については不明な点が多い。『長谷場文書』の貞和２（１３４６）年８月６日付一乗院僧琳乗申状によると、飫肥北郷に城郭を構える旨が記されている。また、『延陵世鑑』には、康安２（１３６２）年飫肥の城に兇徒が立て篭ったので、応安２（１３６９）年、土持豊前守頼宣が攻め落とすとある。これらの城が、飫肥城と同一であるかどうかは判断できないが、１４世紀中頃には、飫肥地方に城郭が存在したことは確実である。以後、長禄２（１

４５８）年、新納近江守忠続が飫肥城に入城したのを皮切りに、日向記に記された伊東氏と島津氏の争奪戦が展開される。

現在の飫肥城は、本丸・松尾の丸と大手門にかけてが昭和５２年、重要伝統的建造物群保存地区に指定された。しかし、中の城・北の城については、昭和５９年にグランド造成工事により消滅、松の丸も土取採取と宅地造成で大半が消滅している。

飫肥城下町（３１１）　第8・9・10・11図

飫肥城と酒谷川に挟まれた城下町である。城下は、方形地割による街区を形成しており、城壁に接した十文字地区と大手門北部に高禄藩士の屋敷がある。現在の国道２２２号線に面した本町通には商工業者の居住区があり、他の短冊型地割の屋敷地には中下級家臣が居住する。

城下町の形成は伊東祐兵入城の天正１５（１５８７）年以後と考えられる。寛永・正保年間の「飫肥城及び城下図」によると、現在の地割と基本的には変化していない。城下町の人口は、天保5年の史料によると、周辺も含めて、男３６２７人、女３０４９人の合計６６７６人とある。

飫肥城下町は、度重なる大火や災害にもかかわらず往時の景観をよく残しているため、昭和５２年に重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けた。

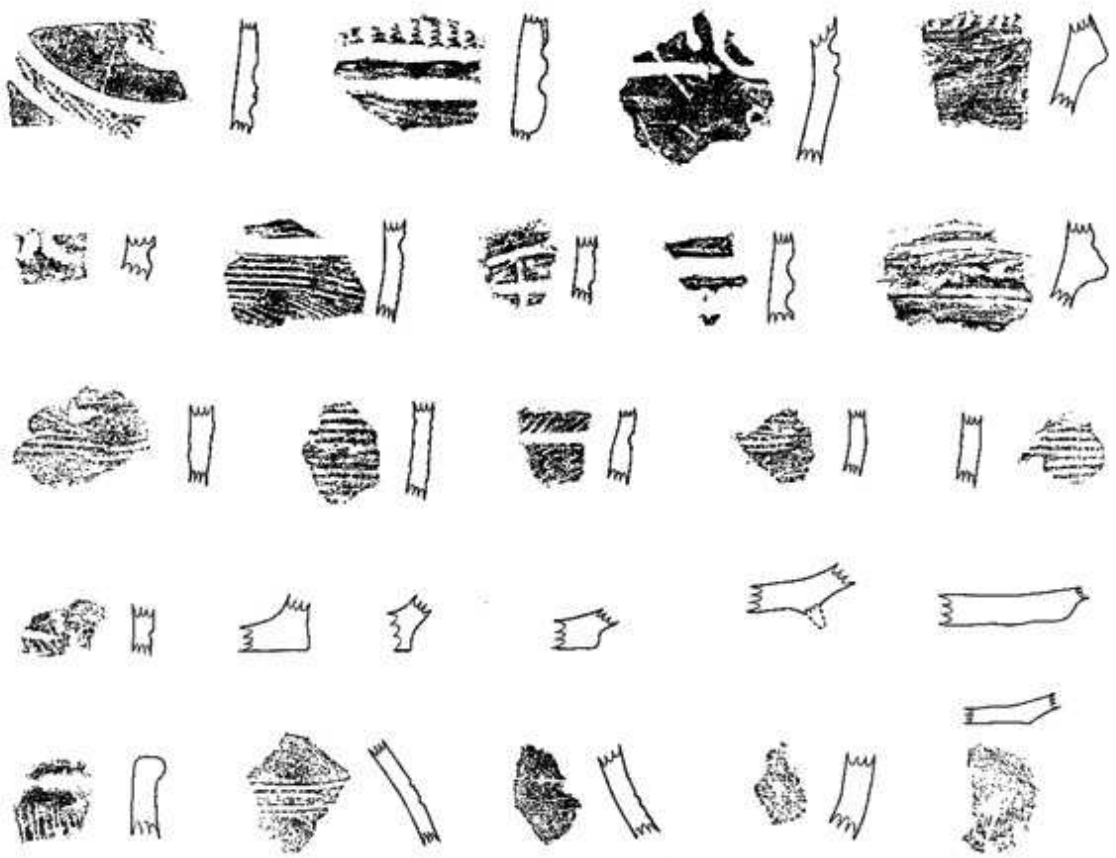
新山城（４０２）　　第１２図

飫肥城の南東約５００m、標高１０７mの山に占地している。城域は、南北２５０m以上、東西２００m以上で、山頂部分を中心に大小の曲輪が構成されている。本丸は、最高所に位置し、南に続く尾根上に二ノ丸がある。二ノ丸以南には、さらに大小の曲輪があり、虎口に至る。

日向記によると、天文１７（１５４８）年に飫肥城の支城として島津氏が守っていたとあり、伊東氏の飫肥攻撃に際しては、重要な防御線であった。その後、永禄元（１５５８）年に伊東氏が城を取るなどの激しい争奪戦が展開されている。

字図によると、現在もなお「本丸」「二ノ丸」「本丸東平」「古市城戸」「栗殿城」などの地名が残されている。

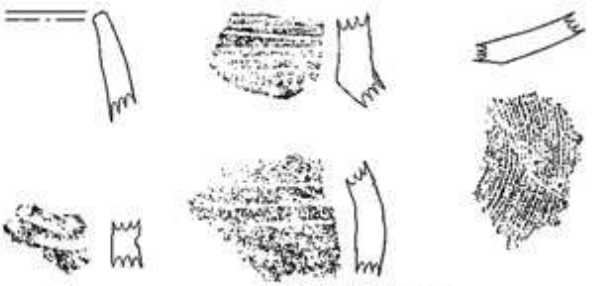
103. 本源寺遺跡



302. 談義所遺跡

0 10cm

第３図　表面採集遺物

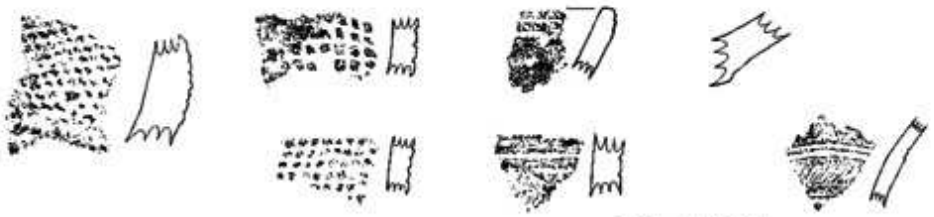


212. 殿所遺跡

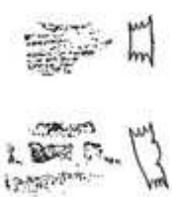
302. 飛ケ峯遺跡

304. 高瀬ケ迫遺跡

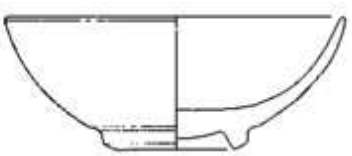
307. 西山寺遺跡



317. 諏訪ノ馬場遺跡



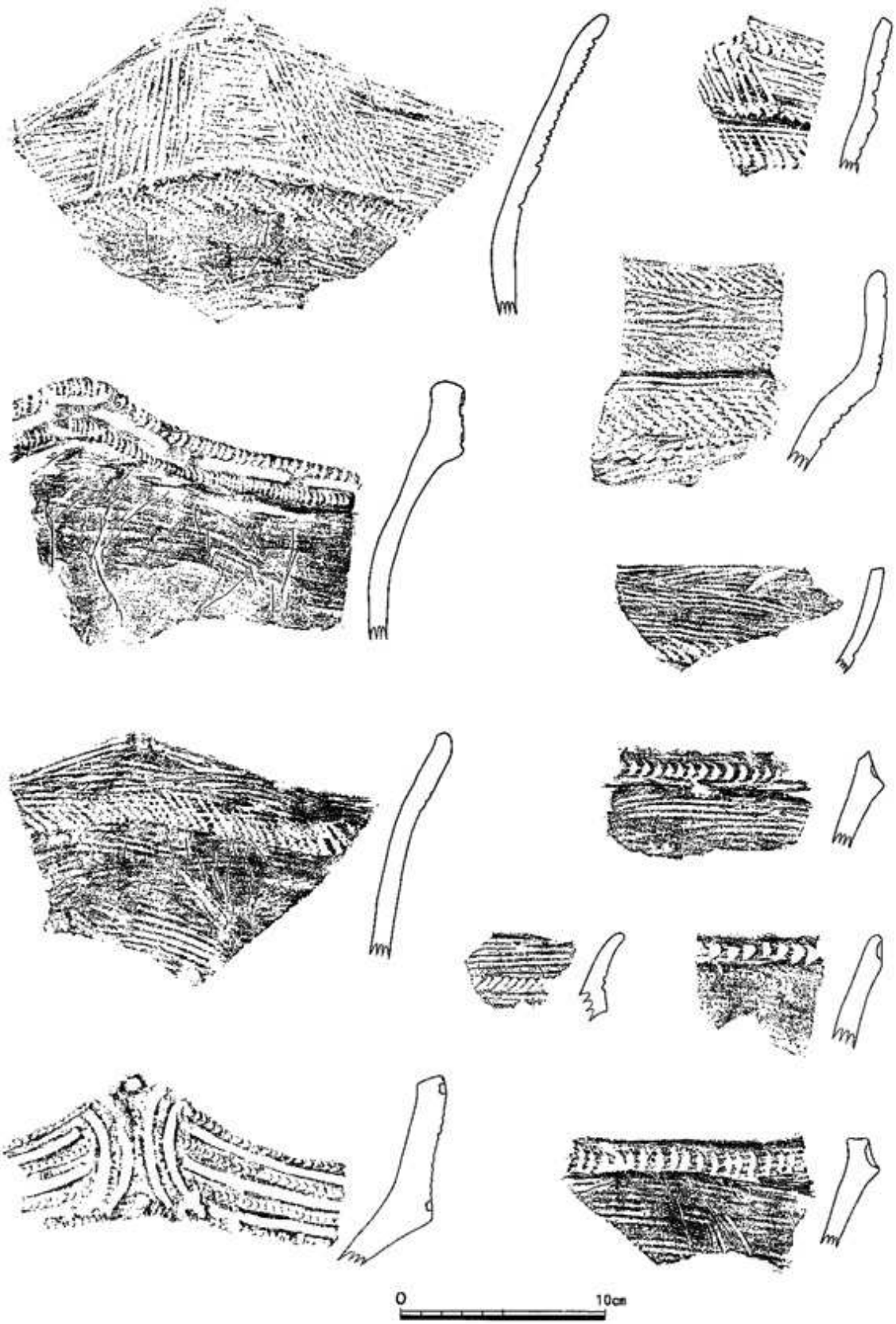
201. 万ケ迫遺跡



310. 麦肥城跡

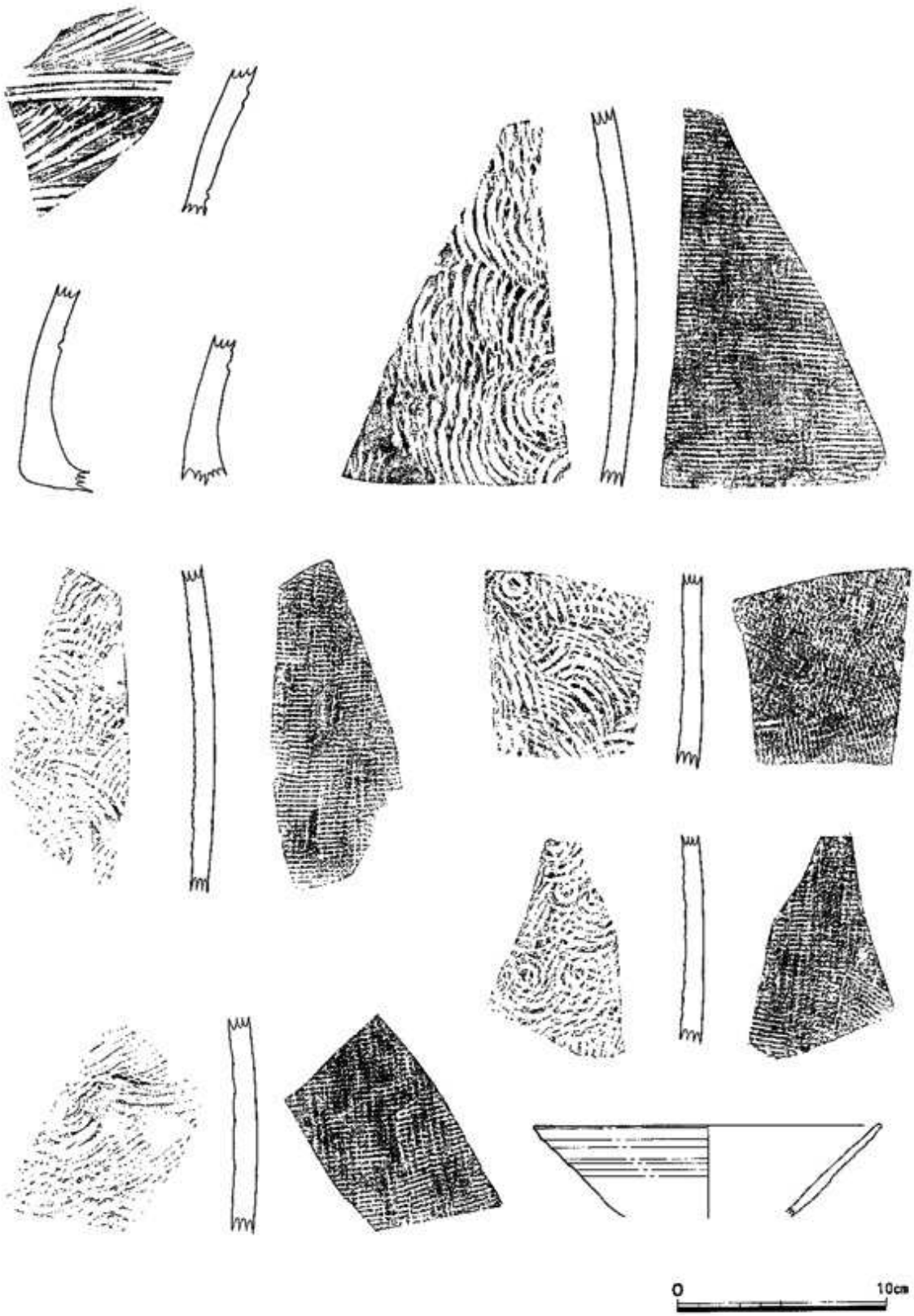
316. 原坂ノ上遺跡

第４図　表面採集遺物

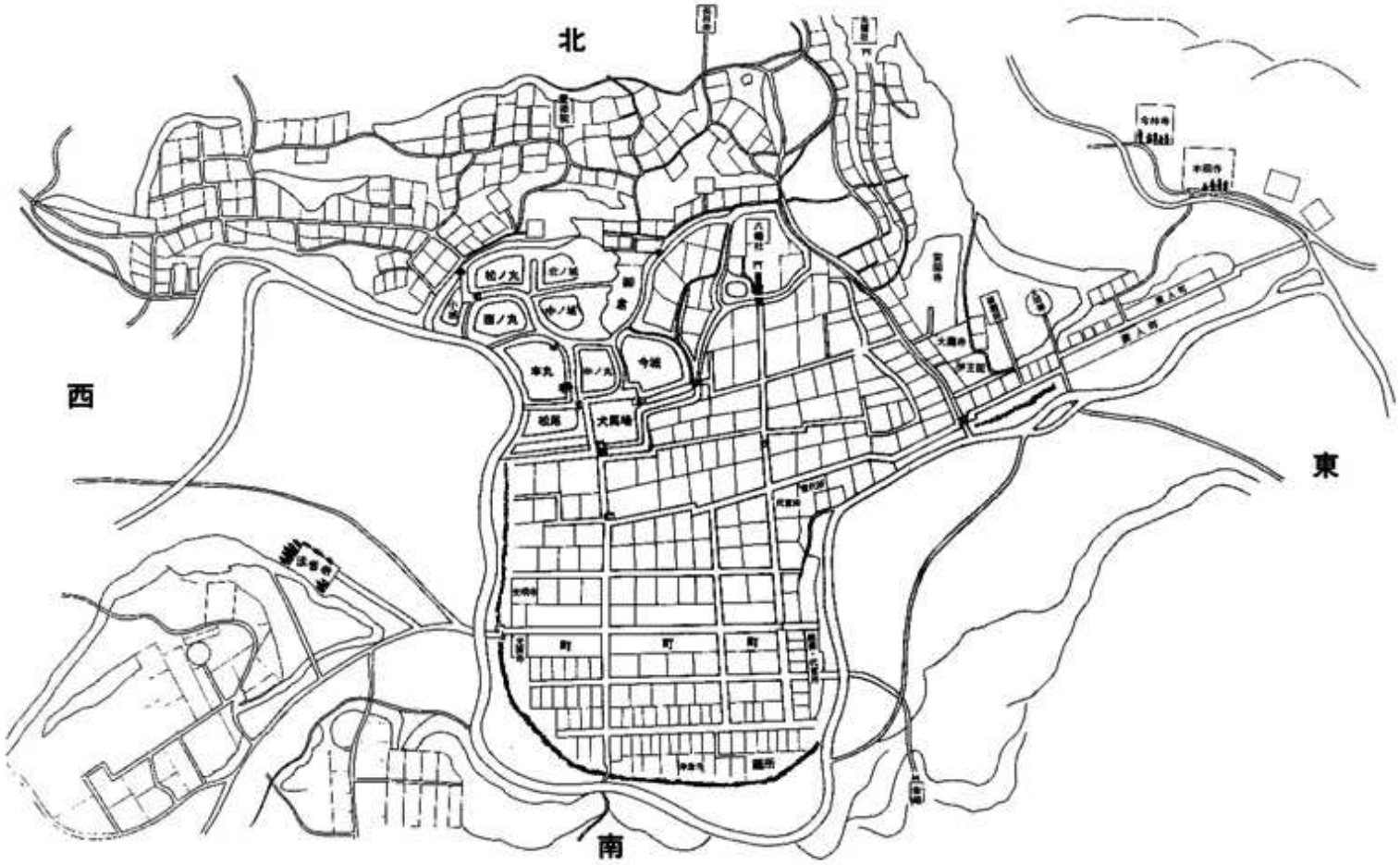


第５図　上講遺跡出土遺物

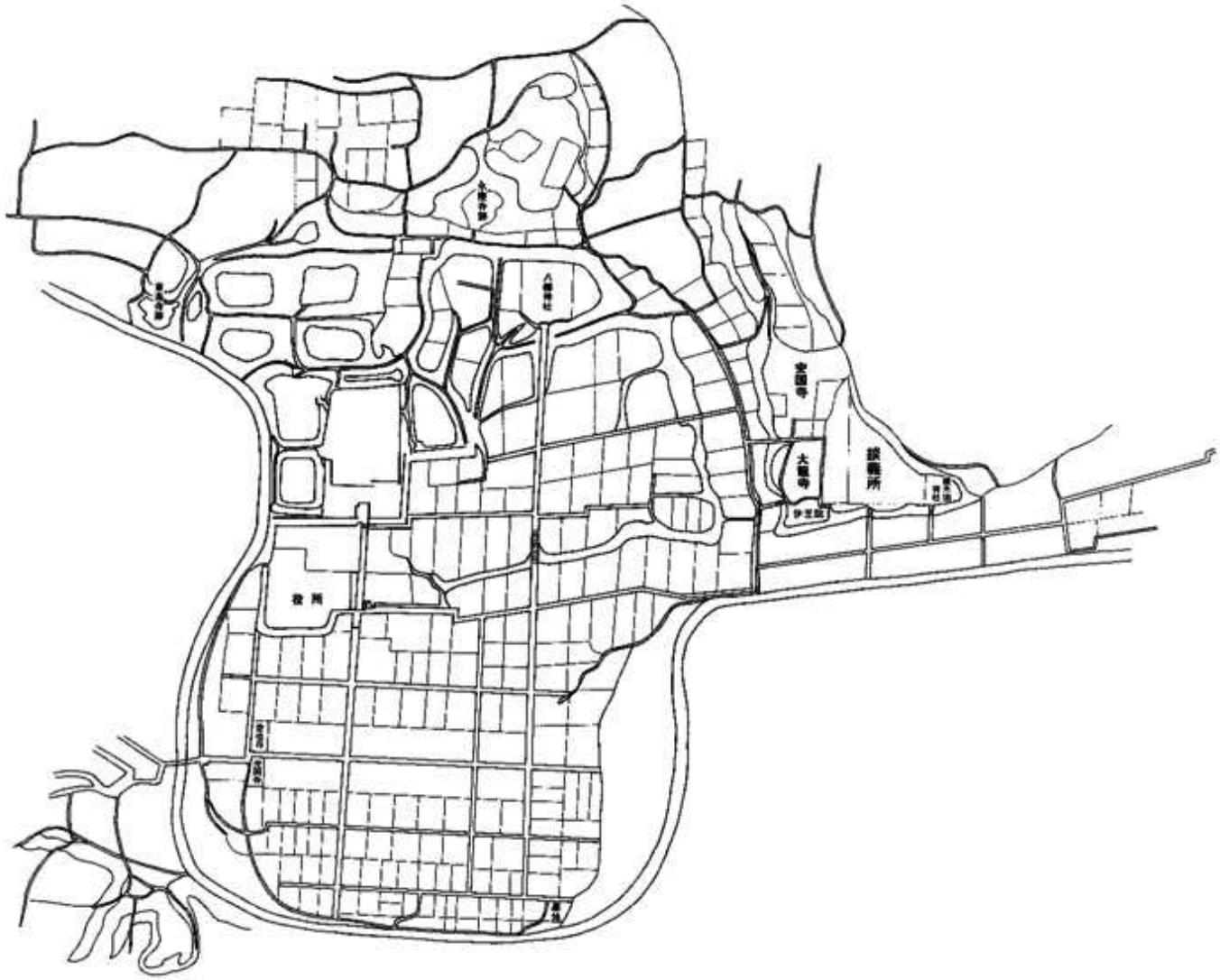
第６図　狐塚古墳測量図



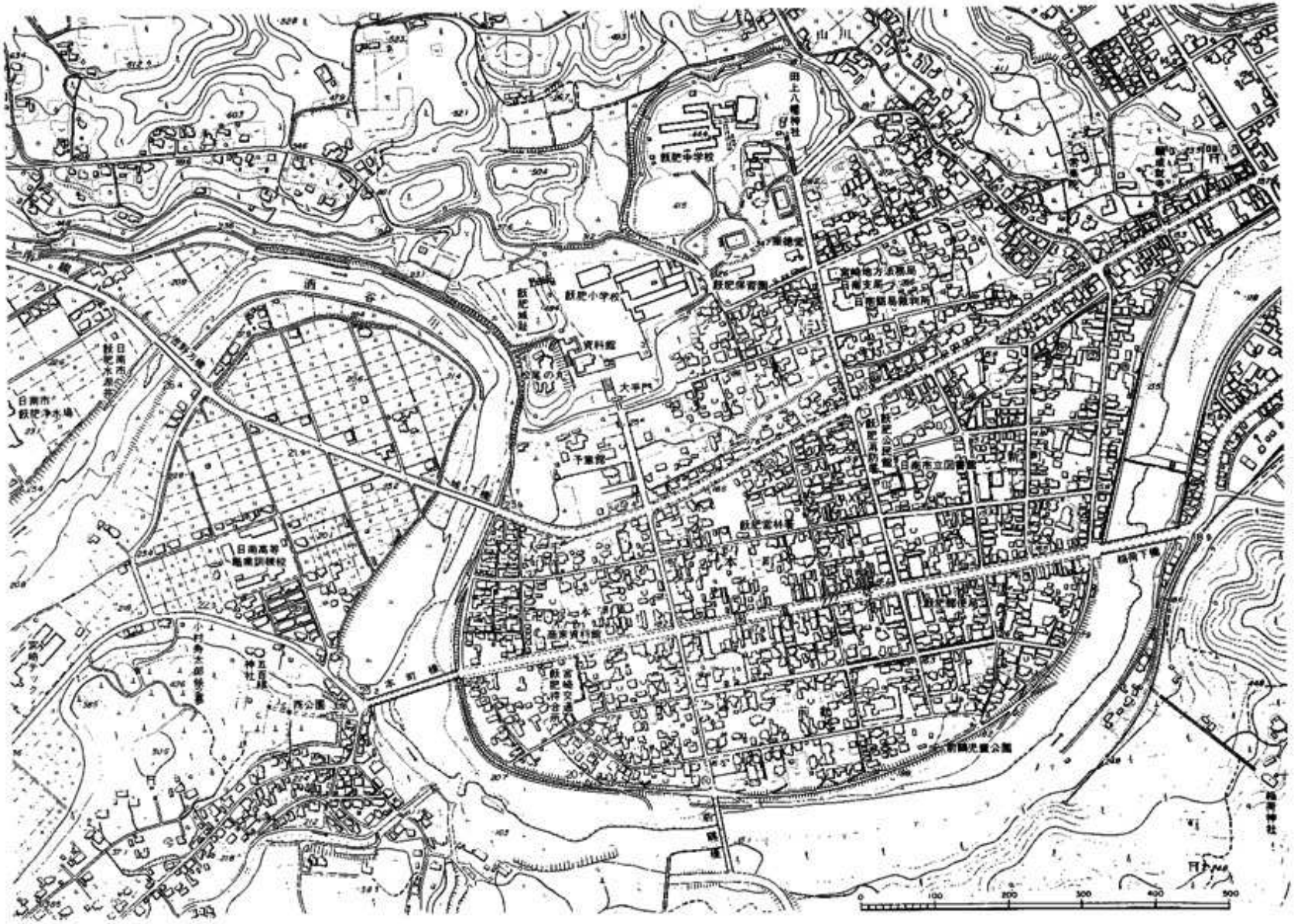
第７図　狐塚古墳出土遺物



第８図　飫肥城下古図(寛永・正保年間)

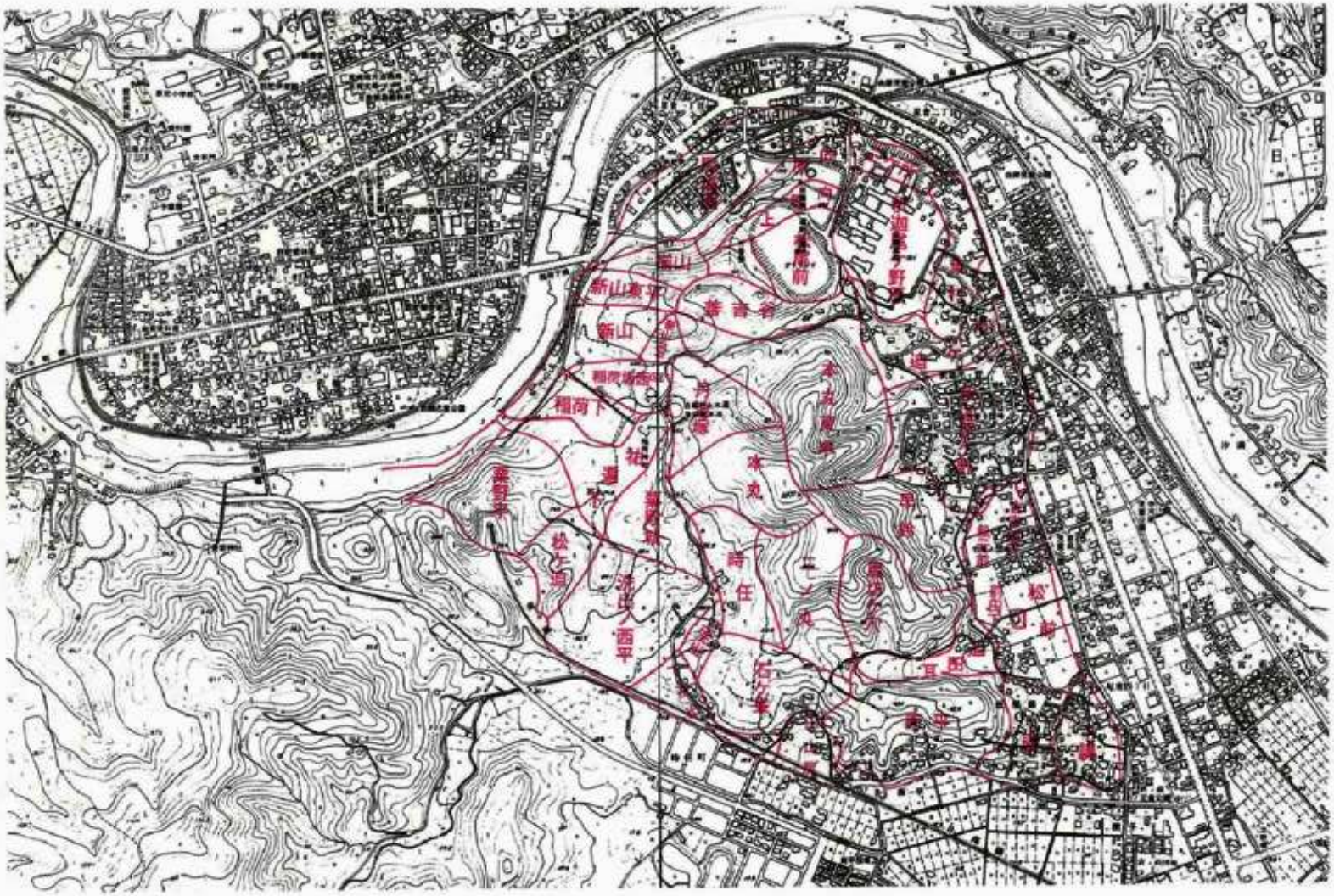


第９図　鉄肥城下古図(慶応年間)



第10図　飫肥周辺現況図

第11図　飫肥周辺航空写真（1：12500）　昭和39年撮影



第12図　新山城字図

Ⅵ. 日南市埋蔵文化財関連文献一覧

1.文化庁文化財保護部　『全国遺跡地図　宮崎県』　１９７７

2.上代日向研究所　『研究資料第二　日向上代遺跡遺物地名表』　１９４４

3.日高　重孝　『日向の遺蹟遺物と傳承』　１９８２（復刻）

4.宮崎県　『日向の伝説と史蹟』　１９７８（復刻）歴史図書社

5.平部嶠南　『日向地誌』　１９７６（復刻）青潮社

〃　『日向古迹誌』　１９７７（復刻）歴史図書社

6.角川書店　『角川日本地名大辞典４５宮崎県』　１９８６

7.石川　恒太郎　『日本城郭大系１６　大分・宮崎・愛媛』１９７７新物往来社

8.日南市役所　『日南市史』　１９７８

9.宮崎県総合博物館　『宮崎県総合博物館収蔵資料目録考古歴史資料編』１９８３

１０.宮崎県教育委員会　『親子でたずねる宮崎県の文化財』　１９８９

１１.鈴木　重吉　『日本の古代遺跡２５宮崎』　１９８５　保育社

１２.宮崎県　『宮崎県史資料編考古１』１９８９

１３.石川　恒太郎　『宮崎県の考古学』　１９６８　吉川弘文館

１４.日高　次吉　『宮崎県の歴史』　１９７０　山川出版社

１５.喜田貞吉・日高重考　『日向國史』１９７３（復刻）　名著出版印刷部

１６.平部嶠南　『日向纂記』１９２７　南那珂教育会

１７.若山　甲蔵　『日向知名録』１９１９蔵六書房

１８.宮崎県神社庁　『宮崎県神社史』１９８８

１９.吉田　常政　『城下町飫肥ガイドー九州の小京都ー』１９７８
（財）飫肥城下町保存会

２０.多田隈　豊秋　『九州の石塔　下巻』　１９７８　（財）西日本文化協会

２１.坂口　雅柳　『九州六地蔵考』１９７９　西日本新聞社

２２.大町　三男　『史跡で綴る都於郡伊東興亡史』　１９８４

２３.吉本　正典　「篠ケ城遺跡ー広域農道建設工事にともなう発掘調査概略ー」
『宮崎県文化財調査報告書　第３２集』　１９８９　宮崎県教委

２４.日南市教育委員会　『飫肥伝統的建造物群保存対策調査報告書』１９７６

２５.日南市　『日南市飫肥町並み保全修景計画報告書』１９８０

２６.日南市教育委員会　『日南市の文化財』１９８４

２７.宮崎県　『宮崎県史蹟調査第六輯』１９２７

２８.宮崎県　『史蹟名勝天然記念物調査報告第十二輯日向ノ金石文』１９４２

地図類

日南市都市計画図　1／２５００　（２６枚組）

　昭和５７年１０月撮影　国際航業株式会社

日南市管内図　1／５０００　（８０枚組）

　昭和５８年１０月撮影　国際航業株式会社

日南市管内図　1／１００００（７枚組）

　昭和５８年１２月　1／５０００を縮小編集　国際航業株式会社

宮崎県日南市　1／１００００（１枚）

　昭和２５年測量、昭和５５年印刷　富士マイクロサービスセンター

宮崎県日南市都市計画図（白図）　1／１００００（１枚）

　昭和５８年１月　1／２５００の縮小　　国際航業株式会社

日南市管内図　1／２５０００（２枚組）

　昭和５４年７月　　宮崎マイクロサービス

日南市管内図　1／５００００（１枚）

　国土地理院の地形図を昭和５５年９月複製　宮崎マイクロサービス

国土地理院旧版地図（折迫・飫肥）　1／５００００

　明治３５年

国土地理院地形図（日向青島・油津・飫肥・郷之原）1／２５０００

　昭和６３年

日南市小字図　　1／１００００

　年代不祥

日南市地形図　　1／３０００

　昭和３９年頃

（その他）日南市航空写真（密着）　　使用カメラＲＭＫ１５／２３

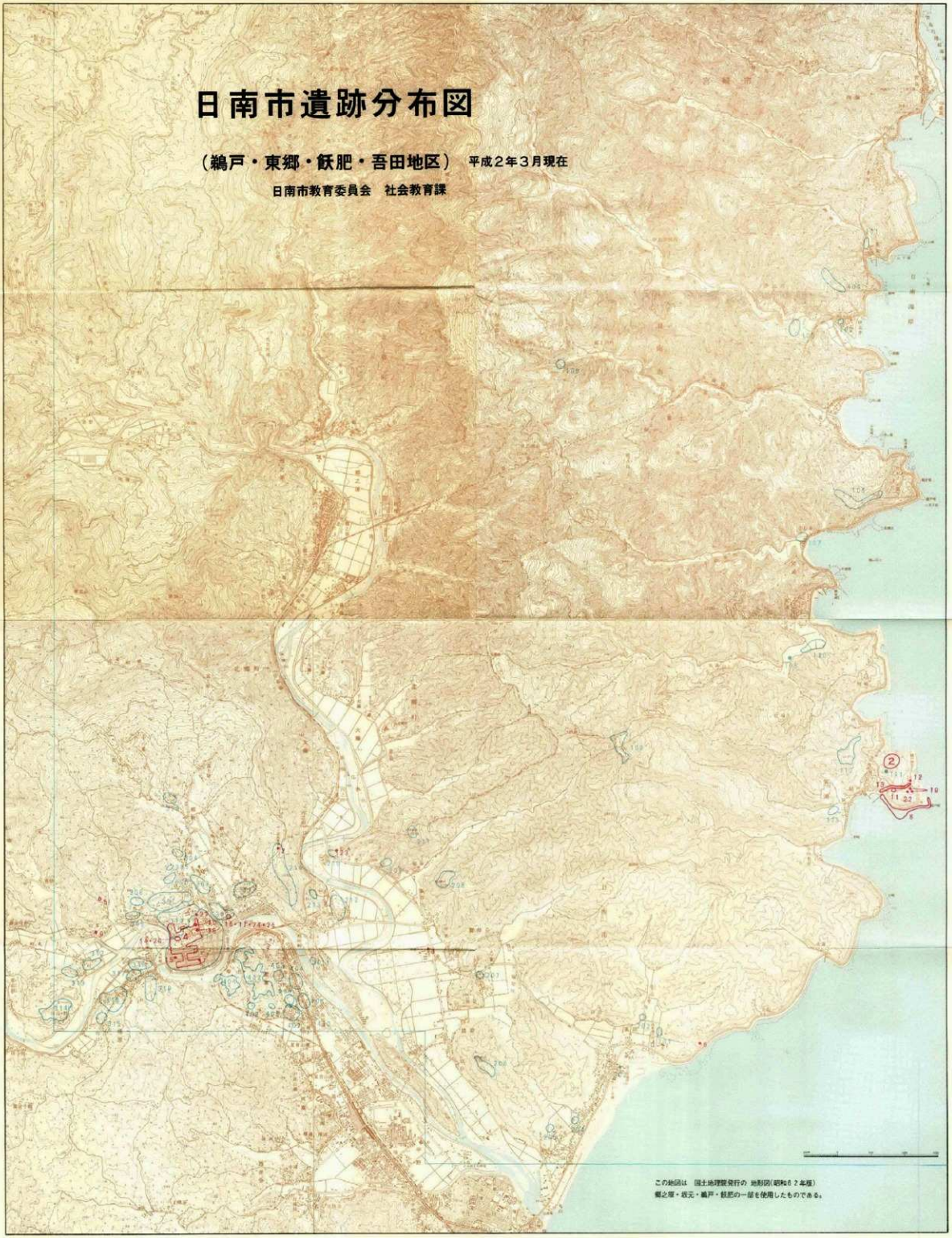
　昭和３９年５月２６日　1／１２５００　日本航業株式会社

日南市遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ
［鵜戸・東郷・飫肥・吾田地区］
１９９０年３月
編集・発行　日南市教育委員会
〒８８７　日南市中央通１丁目１番地１
電話０９８７－２３－１１１１内線５２９
印刷　株式会社　田中写真印刷
〒８８７　日南市大字戸高４４１番地１
電話０９８７－２２－５３２８

日南市遺跡分布図

（鵜戸・東郷・飫肥・吾田地区）　平成２年３月現在

日南市教育委員会　社会教育課



この地図は　国土地理院発行の 地形図（昭和５２年版）
鵜之塔・坂元・鵜戸・飫肥の一部を使用したものである。